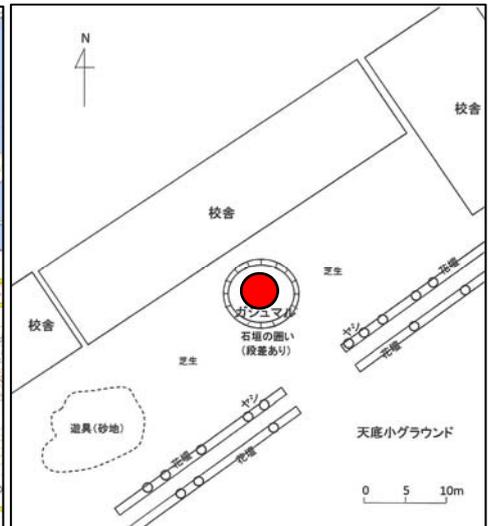


天底小学校のガジュマル



認定番号 71

樹種名	ガジュマル	科名	クワ科	方言名	ドウスヌ	学名	<i>Ficus microcarpa</i> L.f.
形状・寸法	樹高 12.2 m	胸高周囲 7.0 m	根本周囲 6.5 m	樹幹占有面積 387.0 m ²			
	枝下高 1.4 m	枝張 東 12.5 m	西 8.6 m	南 11.7 m	北 11.6 m	最大樹冠幅 23.3 m	
通称	学者ガジュマル	樹齢	160年(推定)	所有者			
所在地	今帰仁村字阿真底420			1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明			
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (森林)			1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他			
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 その他 7 なし			気象条件			
	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			地点: 名護 年度: 2016年 (気象庁HP)			
土地傾斜	1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			月			
土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			1月 2月 3月 4月 5月 6月			
	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()			平均気温(°C) 16.7 16.1 18.1 22.7 25.3 28.1 降水量(mm) 237.0 123.0 212 357.0 124.5 309.5 平均風速(m/s) 4.0 4.5 3.7 3.6 3.2 3.5 風向 NNE S S NNE S WNW			
基岩・母材	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪地 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			潮風の影響			
	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪地 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)			
土性	1 砂壤土: 大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土: 砂と粘土が半々 3 埴壤土: 大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土: ほとんど砂を感じない			日照条件			
	1 砂壤土: 大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土: 砂と粘土が半々 3 埴壤土: 大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土: ほとんど砂を感じない			1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良			
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			周辺樹木の影響			
	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし			1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))			
管理状況	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m 材質 柵内面積 m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他			周辺根元の状況			
	1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ m 材質 柵内面積 m ²) 設置年 2 支柱 a 有 b 無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他			1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし			
過去の治療歴と内容	無し						
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 明治38年(1905年)頃に移植されたと言われ、100年以上も天底小学校の児童を見守ってきた。 6 不明						
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)						
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 シンゴニウム、ソテツ、マツバラン、シラタマカズラ他) 3 見学・参観者 a 有 b 無 4 その他 校庭のシンボルツリー						

地上部の衰退度判定（認定番号71）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.18

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

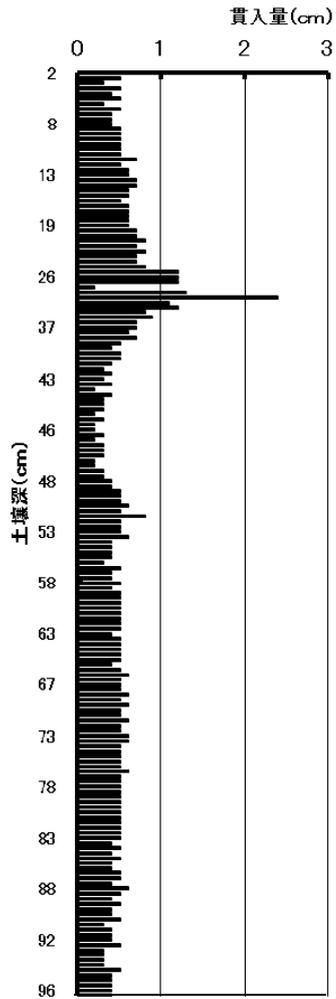
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係		○		
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ		○		
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他()				

土壤調查結果

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	5YR4/4	0-10	塊状	砂壤土	8.0	8.4
II	5YR3/5	10-18	塊状	砂壤土		
III	5YR5/4	18-27	塊状	砂壤土		
IV	5YR5/5	27-	塊状	砂壤土		

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	・土壌構造は塊状、土性は砂壤土である。	・特に無し。
根	・根は石積み内に伸長しているが、その外には石積み外縁に若干見られる程度で、露出根は少ない。 ・つる植物が根本を被覆している。	・サークル外の露出根の保護を検討する。 ・つる植物を除去し、根～幹下部を露出して腐朽の有無とその程度の観察を行うことが望ましい。
幹	・樹皮の傷、脱出孔、古いフラスの様相から過去にイチジクカミキリによる被害が発生していたことが見られる。現在はカミキリの生息は認められない	・無し。
	・新しい気根の発生が見られる。	・枝から伸びる気根は支柱根に仕立て、将来は支柱を撤去することを検討する。
	・高さ 1.2m で双幹となり、その周囲を支柱根で覆われる。古傷が目立つ。	・無し
	・南東側の枝の切り口に腐朽の進行が見られる。 ・その他腐朽枝が見られる。	・腐朽枝の切除を検討する。
	・若い支柱根がロープで横方向に引っ張られ、湾曲している。	・支柱根を引っ張っているロープの除去を検討する。湾曲した部位は縦方向の力に弱くなるので、支柱を設置し、支柱根を真下に誘導することが望ましい。
枝	・腐朽部・傷痕部が多い。 ・南～南西方向に伸びる大枝(ポイントされた支柱)は付け根から枯死しており、キクラゲが発生している。 ・南東方向の枝(中枝)が枯死、落下の可能性が高い。	枯れた大枝・中枝は、基部から切除を検討する。
	・南～南西方向に伸びる大枝(ポイントされた支柱)は付け根から枯死しており、キクラゲが発生している。	・枯死した枝の切除、及び支柱の撤去を検討する。
葉	・南南西の上方の大枝の梢端部の葉は、小型化して、やや退色が認められる。	・無し
	・ミノガ、オキナワイチモンジハムシ、スス病が見られる。	・無し。被害が大きくなりそうな場合は、捕殺または、被害枝(葉)の切除を検討する。
備考	・石積の縁から約 5.5m 外側にコンクリートコアを利用したサークルが設置されている。支柱はその外側に 5 本、内側に 3 本設置されている。	

